

上田市と私とのつながり

滝澤 尚久(化工会)

先日、S33化学系同期会の幹事会に初めて出席したところ、ホームページに何か投稿するようお願いしましたので、今回は上田市と私とのつながりについて書かせていただきます。

私は、東京生まれで、東京育ちなのですが、祖父母や両親が長野県上田市の出身で、祖父が東京に出る前の家が上田市にあって、子供の頃から夏には毎年両親の元を離れて、この家に預けられていました。そして、今も上田市に別荘がありますので、私は10%くらいは長野県の上田人なのだと自分では思っています。



上田の家の裏にある畑で 左より兄、姉、私(昭和13年12月)

田舎の夏は、子供にとって楽しい季節です。毎夏のほかに正月にも行きましたので、近所の子供も、仲の良い友達になって待っていてくれます。田舎の子供たちは、山や川そして、田畑での遊び方を良く知っています。



上田の菅平キャンプ場で左より兄、父、私、親戚の人(昭和16年8月)

近所の友達と一緒にすぐ近くにある千曲川や太郎山に遊びに行きましたが、慣れていない私は良く転んで怪我をしたり、蜂の巣を取りに行って蜂に刺されたりしました。お盆の時に墓へ行く途中で、迎え火を炊くための藁の束を集めながら遊んでいて『こい溜』に落ちたこともありまし

た。昔は田畑の中には『こい溜』といって畑の肥料にするために、便所から汲み上げて来た排泄物を溜めておく溜桶が落とし穴のようにあちこちにあったのです。私はその落とし穴にはまったわけです。そこへゆくと田舎の子供はその辺りの地形を良く知っていました。私は、昭和19年7月に学童疎開をしてからも、田舎の子に勉強では負けませんでした、体力の面ではとても太刀打ちできませんでした。

家では、祖父が上田から出てきて鋳物工場で生計を立て、この資金で衆議院議員などをしていましたが、父は弁護士事務所の方に居る時間が多く、家では祖父の云うことが、絶対でした。私が東工大へ入ったのも祖父の希望で、大学は東工大へ入れば何をやっても良いが、家の工場の社長になることが条件だと云われていたからです。お陰様で私は東工大を卒業後、アメリカの大学へ留学させて貰いました。ウィスコンシン大学の修士課程を修了した年に祖父が他界しましたので、そこで勉強を切りあげて、家の会社へ帰ってきました。家の会社へ帰ってからは、会社の部長や役員は皆私より年上だったのですが、私の言うことを良く聞いてくれました。

お陰様で、今までの人生を大過なく歩んで来られましたことを深く感謝しております。

以上